

尾張地域におけるムササビ (*Petaurista leucogenys*) の生息状況

堀尾 拓矢\*1 尾崎 敬代\*2 大野 卓夫 大橋 那津子  
小澤 優貴\*3 原田 健司 椋本 輝\*3 山田 由貴

愛知県で準絶滅危惧種に選定されているムササビ *Petaurista leucogenys* について、尾張地域を面的に調査した例がなく分布が不明であるため、当地域の生息状況を調査した。調査は、当地域をレッドデータブックあいち2020で採用されている日本測地系による5倍地域メッシュで区切り、1メッシュあたり1地点以上の計89地点で、個体の目視、鳴き声、食痕、糞を確認する方法により行った。その結果、89地点のうち31地点、調査対象28メッシュのうち13メッシュで生息を確認した。今回の調査により、レッドデータブックあいち2020で確認されていた5メッシュのほか、新たに8メッシュで生息を確認した。

キーワード ムササビ, *Petaurista leucogenys*, 鳴き声, スペクトログラム, 生息分布, 尾張地域

## 1 はじめに

ムササビ *Petaurista leucogenys* は、齧歯目リス科に属し、皮膜を利用して滑空する夜行性の樹上性哺乳類で、日本固有種である<sup>1)</sup>。本州、四国、九州に生息しており、日本全国においては普通種であるが、愛知県では準絶滅危惧種に選定されている<sup>2)</sup>。

愛知県におけるムササビの分布については、西三河地域では岡崎市<sup>3)</sup>、豊田市<sup>4)</sup>で、東三河地域では豊橋市、豊川市、蒲郡市<sup>5)</sup>で、奥三河地域では全域（新城市、北設楽郡）<sup>6)</sup>で確認されている。一方、尾張地域（一宮市、瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町）では、1979年に瀬戸市雲興寺で<sup>7)</sup>、2014年に春日井市野外教育センターで<sup>8)</sup>確認されている。瀬戸市の海上の森では、2005年日本国際博覧会にかかる環境影響評価の調査により生息が確認され、さらにテレメトリー調査により生息域の分布が推定された<sup>9)</sup>。その後、海上の森保全活用計画に基づき現在も継続して生息状況の調査が行われている<sup>10)</sup>。これらの確認事例の他は尾張地域を面的に調査した例はなく、当地域におけるムササビの分布は不明である。

そこで、現在の尾張地域のムササビの生息状況を調査したので報告する。

## 2 方 法

## 2.1 調査地点

調査地である尾張地域の森林面積の割合は17.8%で、その36.4%が人工林である<sup>11)</sup>。当地域は、陶土の採掘や燃料用材として森林を過剰に利用したため、かつては、はげ山が広域に存在した<sup>12)</sup>が、明治末期から取り組まれたはげ山復旧事業により森林が造成され、現在は広葉樹やマツ類が主体となっている<sup>13)</sup>。

当地域をレッドデータブックあいち2020で採用されている日本測地系による5倍地域メッシュ（以下、「メッシュ」という）で区切り、樹林地が含まれる1メッシュに対して1地点以上の調査地点を設定した。ムササビの生息地として知られる社寺林を主に設定し、社寺林が存在しないメッシュは地理院地図やGoogleマップの空中写真により相対的に大きな木がある場所を確認し、調査地点とした。他に、ムササビの行動圏（オス：約2 ha、メス：約1 ha<sup>14)</sup>）以上の樹林地面積がある木曾川の河畔林、社寺林が存在せず樹林地面積が広い、愛・地球博記念公園、愛知県森林公園（植物園と一般公園）、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所（犬山研究林、赤津研究林）にも設定し、89地点を調査地点とした。

## 2.2 調査方法

調査は2023年7月から2024年12月にかけて行った。

ムササビの生息確認方法として、個体の目視、鳴き声、巣穴、巣材の採取痕、食痕、糞を確認する方法がある。個体の目視と糞を確認する方法は、同定の容易さから各地のムササビの分布調査で用いられてきた<sup>15)16)17)</sup>。また、

\*1 西三河県民事務所 \*2 東三河総局新城設楽振興事務所

\*3 尾張県民事務所

ICレコーダーを用いてムササビの活動時間に音声を録音し、その特徴的な鳴き声<sup>18)19)</sup>から生息を確認する方法も用いられてきている<sup>6)20)21)</sup>。

### 2.2.1 糞・食痕調査

ムササビの糞を見つけやすい相対的に直径が大きいスギやヒノキを調査木として選び<sup>20)22)</sup>、その根元の周囲で落ち葉を除去しながら糞を探した。糞を見つけられない場合は、同様に直径が大きい木を新たな調査木として選び、10本程度まで調査を繰り返した。

ムササビの糞は5 mm程度の球状であり、他の動物のものとは容易に区別できるが、果実や土塊との誤判定を防ぐため、指先で潰して中が細かな繊維質であることを確認した。

糞を見つけられなかった場合は、食痕調査を行った。次の2点の基準に該当するものをムササビの食痕とした。①切り取られたひと枝の切り口が斜めであり、枝に残された芽・葉・花・種子などに採食の跡があるもの、②葉脈に沿ってV字の切れ込みがある葉や、中央に丸く穴が開いた葉など特徴的な痕跡のあるもの<sup>22)</sup>。

### 2.2.2 音声録音調査

ムササビの糞を見つけやすい相対的に直径が大きいスギやヒノキが少なく、樹林が広い愛・地球博記念公園、愛知県森林公園、東京大学生態水文学研究所犬山研究林（以下、「犬山研究林」という）は糞・食痕調査には適していないため、音声録音調査を行った（図1）。



図1 音声録音調査地区位置図

各調査地区で200 mメッシュ（以下、「音声調査メッシュ」という）を設定し、各音声調査メッシュの中心付近にICレコーダー（サンワサプライ 400-SCNICR1BK）を雨除けのプラスチック製ケースに入れて設置し、ムササビが出巢・活動する日の入時刻から約2時間の音声を6日間録音した。例として、犬山研究林に設置したICレコーダーを写真1、写真2に示した。

音声の確認は音声編集ソフトウェアのAudacity<sup>23)</sup>を用い、スペクトログラムにより視覚的に確認した。ムサ

サビの鳴き声のスペクトログラムを確認した場合、近接する音声調査メッシュの同時刻のスペクトログラムを確認し、同一である場合は最も音圧の大きな音声調査メッシュ内で発声したものとして扱い、重複がないよう注意した。音声の回数は、一続きの声を1回と数えた<sup>24)</sup>。



写真1 犬山研究林に設置したICレコーダー



写真2 ICレコーダーのマイク部分

### 2.2.3 直接観察調査

ムササビの生息情報がある、名古屋市と瀬戸市にまたがる尾張戸神社、瀬戸市の大目神社において調査を行った（図2）。日の入時刻から1時間30分程度、赤色ライトを用いてムササビを探し、個体を目視で、もしくは鳴き声を観察した。

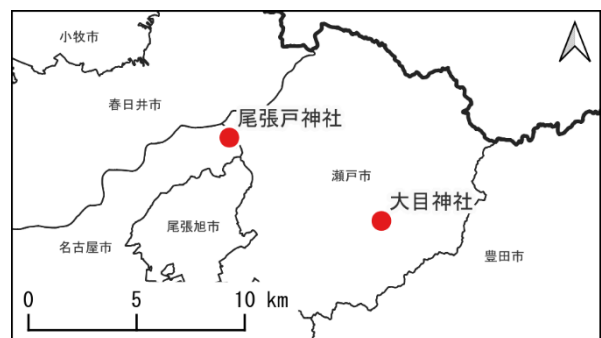


図2 直接観察調査地区位置図

### 3 結果と考察

次の3点のいずれかに該当する場合、「生息している」と判断した。①糞・食痕調査によりムササビの糞または食痕を見つけた、②音声録音調査によりムササビの鳴き声が録音されていた、③直接観察調査により個体を目視もしくは鳴き声で確認した。

いずれの生息確認方法によっても生息確認ができなかった調査地点については、生息しているにもかかわらず、①糞を見つけれなかった、②鳴き声を確認できなかった、③個体を目視できなかった可能性があるため、「おそらく生息していない」と判断した。

#### 3.1 糞・食痕調査

調査は2023年7月31日から2024年12月16日にかけて行った。87地点のうち26地点で糞を見つけた。例として、尾張富士大宮浅間神社で見つけた糞を写真3、その糞を中が細かな繊維質であることを確認のために潰したものを写真4に示した。ムササビの行動圏（オス：約2 ha、メス：約1 ha）以上の樹林面積がある木曾川の河畔林（調査対象：約0.14 - 17 ha）では糞を見つけれなかった。

糞を見つけれなかった地点で行った食痕調査では、いずれの地点においても食痕を見つけれなかった。



写真3 尾張富士大宮浅間神社で見つけたムササビの糞



写真4 中が細かな繊維質であることを確認した糞

海上の森における糞・食痕調査中に、ムササビ用の巣箱から顔を出している個体を確認した（附表No.81）。また、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所赤津研究林（以下、「赤津研究林」という）において、所員によるアカマツの樹洞から顔を出しているムササビの目撃情報と、危険防止のため伐採されたそのアカマツの樹洞（写真5）にムササビの巣材が入っていることを確認した（写真6、附表No.85）。



写真5 赤津研究林で確認した樹洞のあるアカマツ



写真6 ムササビの巣材を確認したアカマツの樹洞

### 3.2 音声録音調査

#### 3.2.1 愛・地球博記念公園

調査は2023年12月12日から12月17日に行った。全19の音声調査メッシュ中、ムササビの鳴き声を確認した音声調査メッシュはなかった。音声調査メッシュ4は機材の不良により欠測となった（図3、附表No. 42）。

#### 3.2.2 愛知県森林公園

調査は2023年12月20日から12月25日に行った。全22の音声調査メッシュ中、10の音声調査メッシュにおいてムササビの鳴き声を確認した。音声調査メッシュ4は機材の不良により欠測となった（図4、附表No. 43）。

延べ40回の鳴き声を確認した。重複を削除すると31回となった。重複とした鳴き声のスペクトログラムの例を図5に示した。

鳴き声を確認した音声調査メッシュにおける1時間あたりの発声回数（以下、「発声頻度」という）は0.08 - 0.83回/hであり、最も多く確認したのは植物園内の花木区付近であった。

調査地区内の樹林地1ha・1時間あたりの発声回数（以下、「発声密度」という）は0.044回/h・haであった。

#### 3.2.3 犬山研究林

調査は2024年10月17日から10月22日に行った。全20の音声調査メッシュ中、8の音声調査メッシュにおいてムササビの鳴き声を確認した（図6、附表No. 88）。

延べ12回の鳴き声を確認した。重複を削除すると10回となった。重複とした鳴き声のスペクトログラムの例を図7に示した。

発声頻度は0.08 - 0.17回/hであり、目立って多くの鳴き声を確認した音声調査メッシュはなかった。

発声密度は0.014回/h・haであった。



図3 愛・地球博記念公園の音声録音調査結果

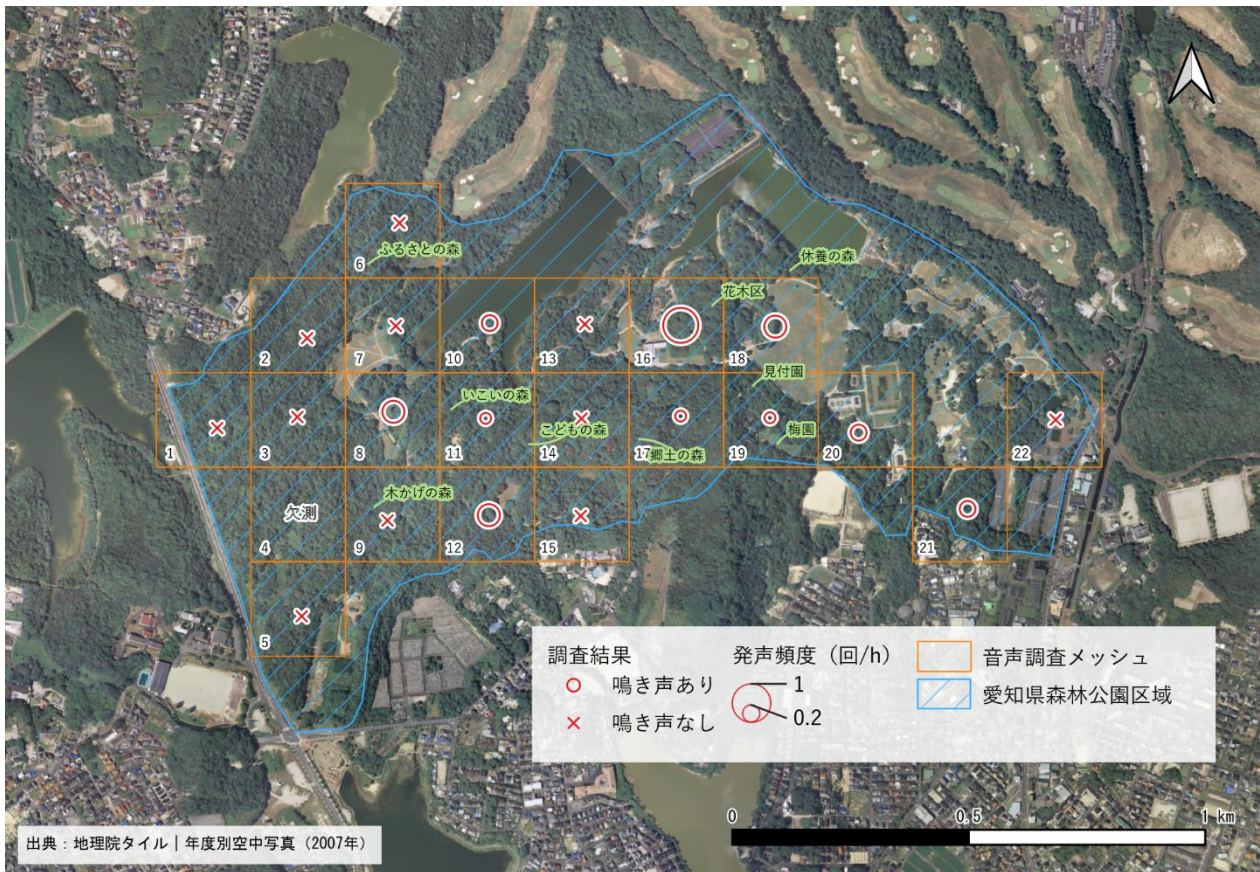


図4 愛知県森林公園の音声録音調査結果

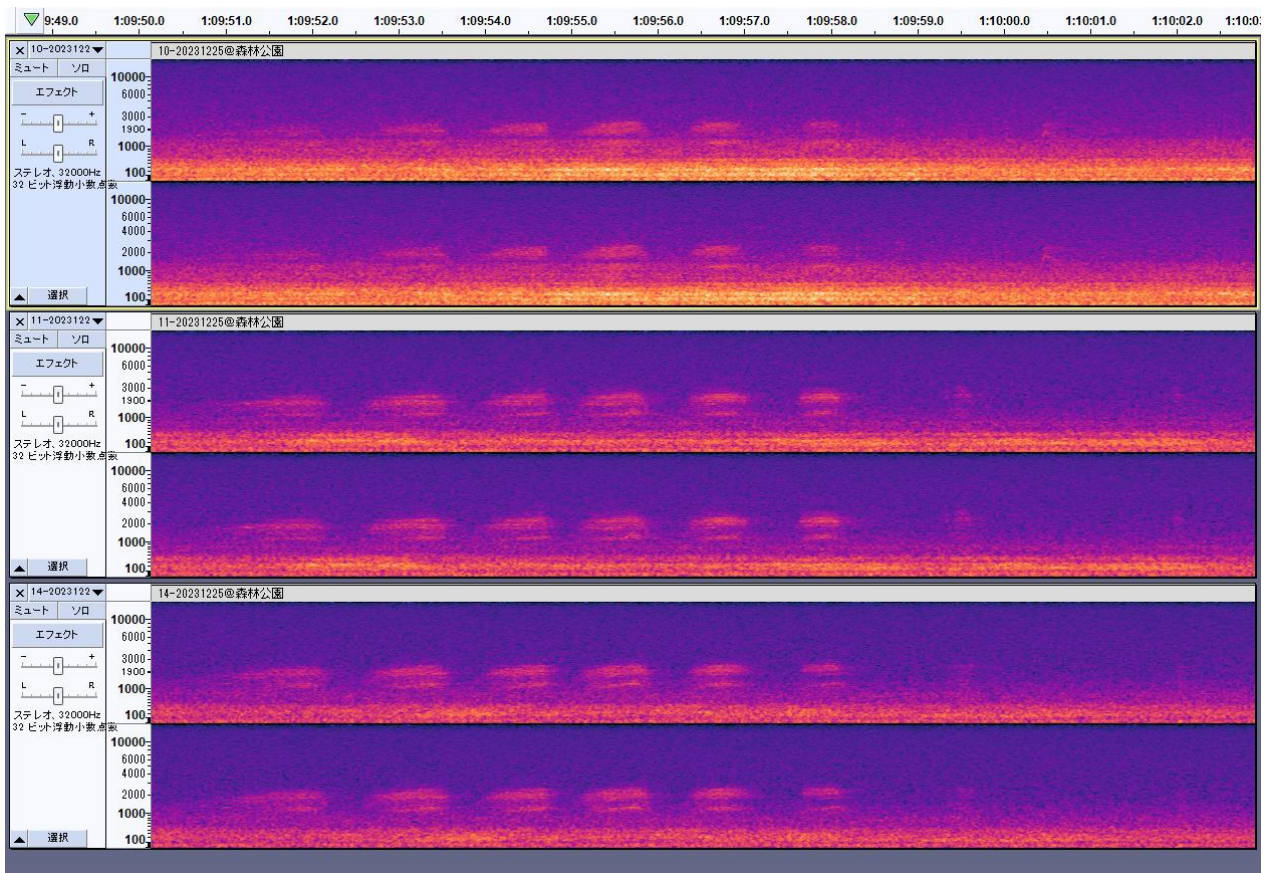


図5 愛知県森林公園の近接する音声調査メッシュ (No. 10, 11, 14) の同一とした鳴き声のスペクトログラム

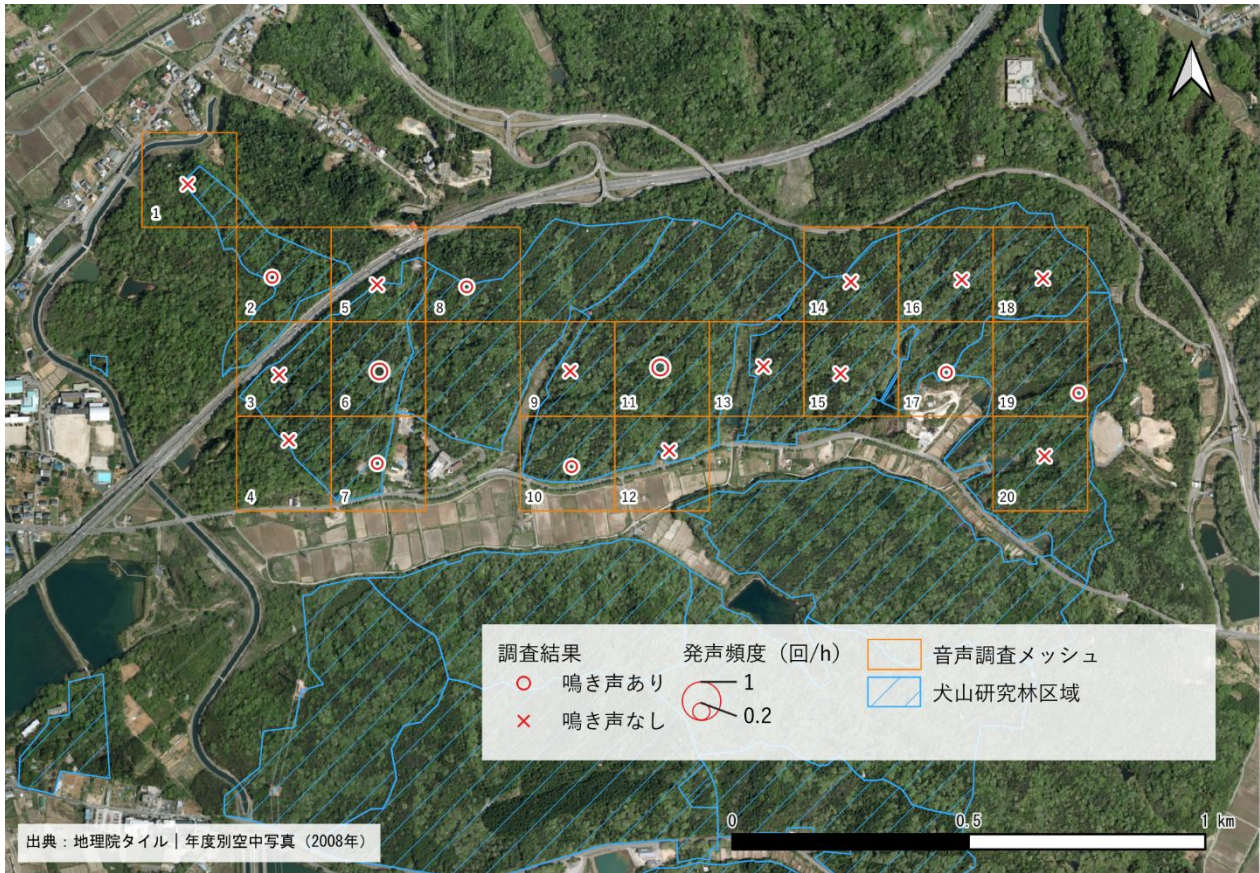


図6 犬山研究林の音声録音調査結果

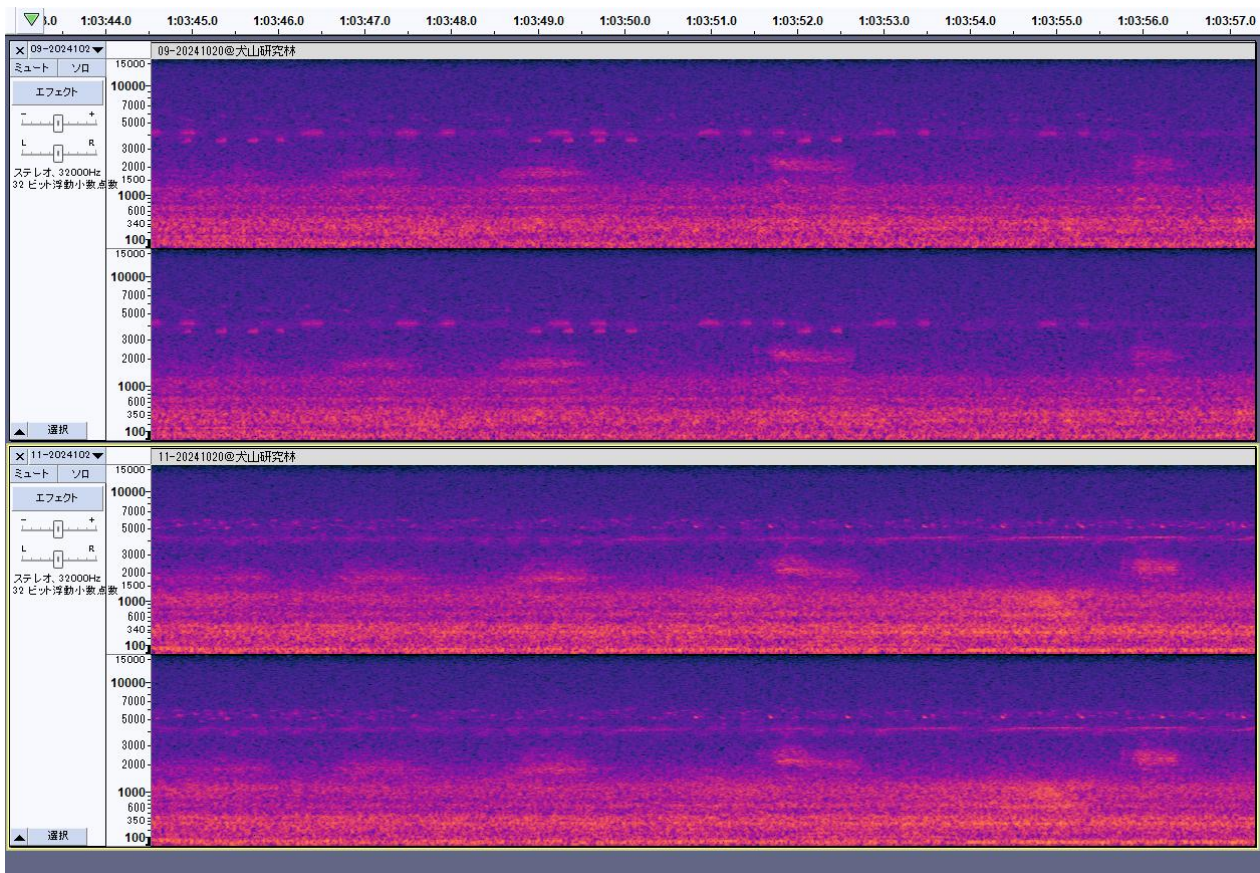


図7 犬山研究林の近接する音声調査メッシュ (No. 9, 11) の同一とした鳴き声のスペクトログラム

### 3.3 直接観察調査

#### 3.3.1 尾張戸神社

調査は2024年1月18日と1月26日に行った。1月18日は雨天で鳴き声、姿ともに確認できなかった。1月26日は鳴き声と2個体の姿を確認した（写真7、附表No. 44）。



写真7 尾張戸神社で確認したオスの個体

#### 3.3.2 大目神社

調査は2024年12月16日に行った。鳴き声は確認できなかったが、1個体の姿を確認した（附表No. 89）。

### 3.4 尾張地域の生息状況

全ての調査方法による結果を図8に示した。音声録音調査は音声調査メッシュ毎ではなく、調査地区の中心を調査地点として、音声調査メッシュの一つでも鳴き声を確認された場合は「生息している」として表示した。89地点のうち31地点が「生息している」と判断され、犬山市、春日井市、瀬戸市の東部にある尾張丘陵の樹林地に分布していることを確認した。山地部樹林地との連続性がある犬山市北部の樹林地、山地部樹林地との連続性がない長久手市、日進市、東郷町、豊明市の樹林地、ムササビの行動圏以上の樹林地面積がある木曽川の河畔林では「おそらく生息していない」と判断された。

本調査結果をメッシュ単位で集計し、レッドデータブックあいち2020の分布図、2020年から2021年にかけて行われた東三河南部地域の調査結果<sup>5)</sup>、2020年に行われた岡崎市の調査結果<sup>3)</sup>、2020年から2022年にかけて行われた奥三河地域の調査結果<sup>6)</sup>と合わせて図9に示した。調査した28メッシュのうち、「生息している」と判断されたのは13メッシュであった。レッドデータブックあいち2020で生息が確認されていた尾張地域の5メッシュ全てで生息を確認し、新たに8メッシュで生息を確認した。

### 3.5 生息環境と発声頻度・発声密度

新城市内の樹林地において行われた同様の音声録音調査<sup>2)</sup>と今回の調査結果を比較した（表1）。新城市内の調査では、小規模な社寺林のみで構成される日吉神社は発声密度が1.94回/h・haと最も高く、小規模な社寺林とヒノキ植林地で構成される古宮城址は0.59回/h・haであり、それに比して愛知県森林公園は0.044回/h・ha、犬山研究林は0.014回/h・haと明らかに低かった。生息環境における発声頻度の違いは安藤・倉持による調査もあり、社寺林で頻繁に声が聞かれ、植林地や一般的な山地林ではあまり聞かれない結果が得られており<sup>19)</sup>、生息環境による発声頻度の傾向は類似であった。

表1 音声録音調査による発声密度の比較

調査地：所在地（生息環境）	調査対象 樹林地面積 (ha)	発声密度 (回/h・ha)
愛知県森林公園：尾張旭市（かつてははげ山で、昭和10年頃からの森林公園造成により現在の森林に再生した。 <sup>25)</sup> ）	70.32	0.044
犬山研究林：犬山市（かつてははげ山で、昭和の初期から砂防工事と緑化工事が行われて現在の森林に再生した。 <sup>26)</sup> ）	70.89	0.014
古宮城址：新城市（スギが主の社寺林とヒノキの造林地。近隣の樹林地とは道路や住宅で隔てられている。）	3.85	0.59
日吉神社：新城市（針葉樹が優先する社寺林。近隣の樹林地とは田畑で隔てられている。）	0.36	1.94
緑が丘：新城市（低山の上部が宅地開発され、宅地周囲の斜面が樹林地として残されている山地林。近隣の樹林地とは道路や線路、住宅で隔てられている。）	16.68	0.09

## 4 まとめ

尾張地域の樹林地は、ほぼ全域が明治中期にははげ山であり、その後のはげ山復旧・治山事業により森林に再生している。この再生された樹林地のうち、主に尾張丘陵でムササビが分布していることを確認した。ムササビの生息には様々な樹木の存在<sup>27)</sup>や樹林地の連続性が必要<sup>28)</sup>であるが、この条件を満たしている犬山市北部は今回の調査では生息の確認ができなかった。

社寺林や大径木の樹林地周辺ではない、生息密度が低い可能性がある環境における生息調査は音声録音調査に

より行うことができ、鳴き声が届く範囲であれば鳴き声による密度分布も確認できる。鳴き声以外の調査も併せて行うことで、植林地や山地林の生息状況をより正確に把握することができると考えられる。

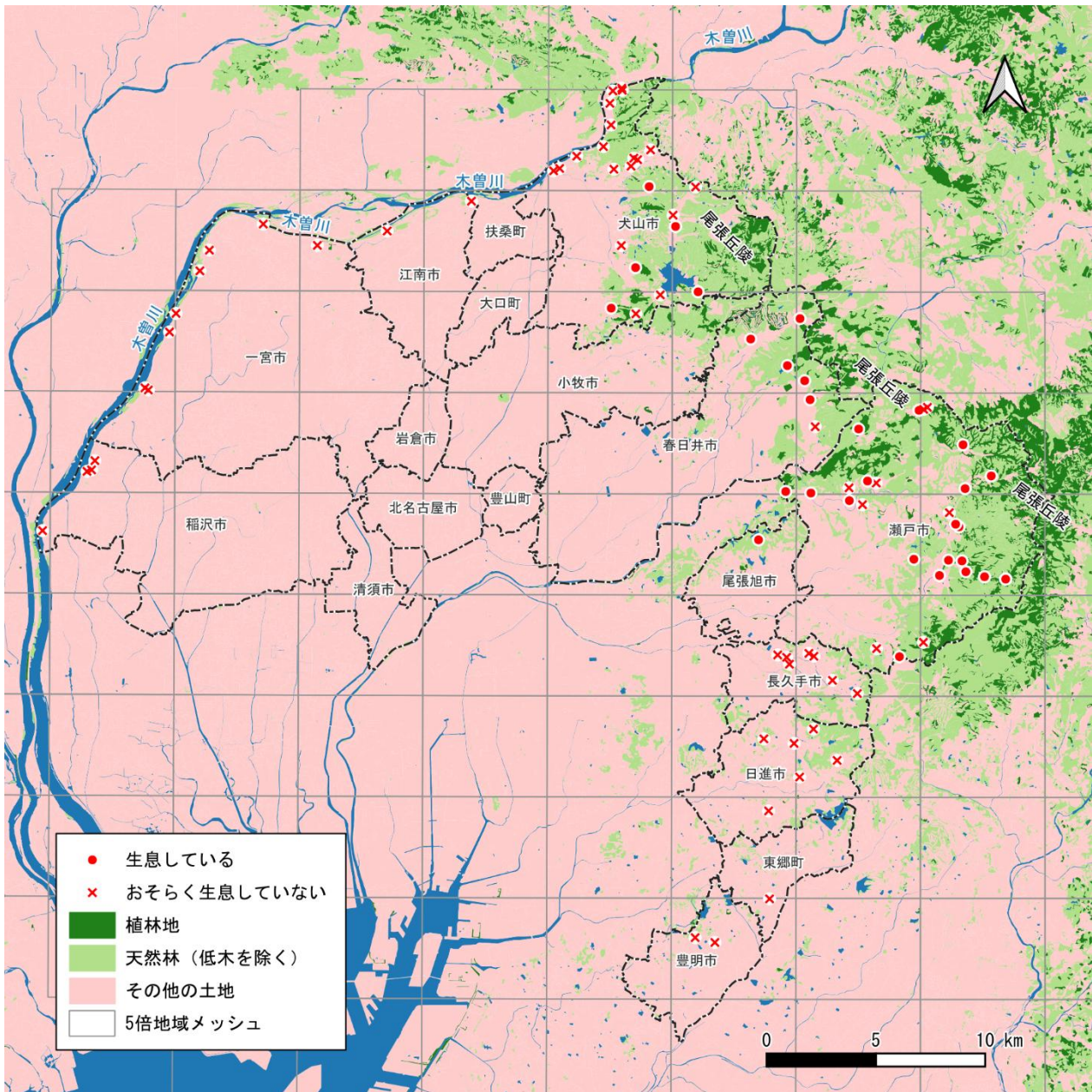


図8 尾張地域におけるムササビの生息状況

環境省生物多様性センターによる自然環境保全基礎調査植生調査の第6回・第7回植生調査地理情報システムデータのうち、植林地、低木を除く天然林（落葉広葉樹林、河辺林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、常緑広葉樹林、常緑広葉樹二次林）を示した。

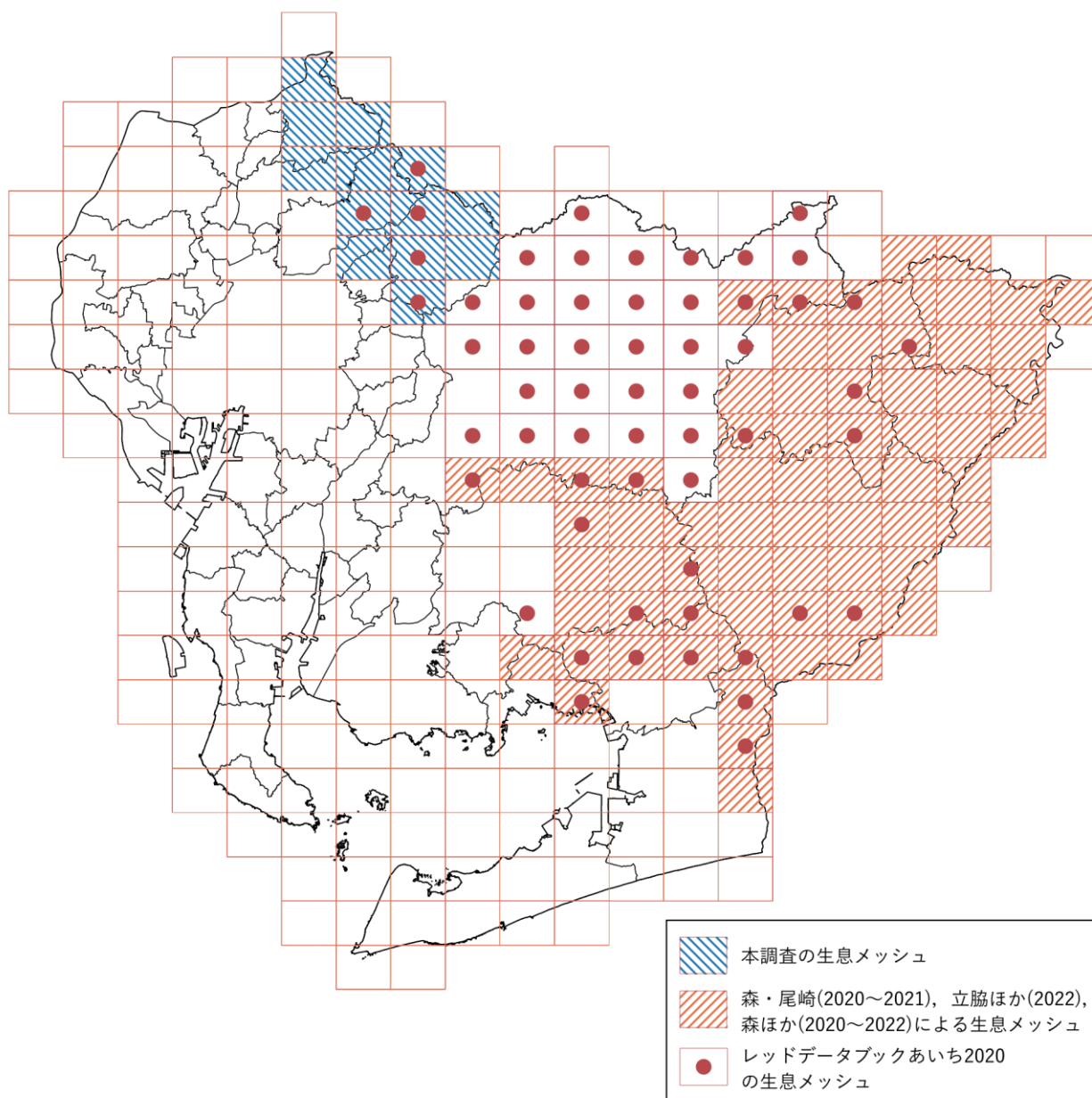


図9 愛知県のムササビ分布状況

## 謝 辞

本調査の実施にあたり、土地管理者の方々には、調査地への立ち入り、機材の設置の承諾等のご理解・ご協力をいただきました。調査は、愛知県尾張県民事務所環境保全課、愛知県環境調査センター企画情報部職員の協力を得ました。この調査に関わっていただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、本調査は事務所環境保全課題検討事業（令和5年度～令和6年度）により実施しました。

## 文 献

- 1) 環境省自然環境局生物多様性センター 日本の動物分布図集, (2010)
- 2) 愛知県 レッドデータブックあいち 2020, ムササビ, 86 (2020)
- 3) 立脇隆文, 伊與田翔太, 中嶋靖男 愛知県岡崎市におけるムササビの分布, 豊橋市自然史博物館研究報告, 32, 9-15 (2022)
- 4) 子安和弘, 岡田慶範, 小鹿登美, 吉村文孝 豊田市生物多様性調査報告書<分冊その 3> XIV 哺乳類,

- [https://www.city.toyota.aichi.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/016/111/03new/007\\_02.pdf](https://www.city.toyota.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/016/111/03new/007_02.pdf) (2026. 2. 24)
- 5) 森 拓矢, 尾崎敬代 東三河南部地域におけるムササビの生息状況, 蟲譜, **60(1)**, 13-16 (2021)
  - 6) 森 拓矢, 尾崎敬代, 加藤悠子, 沢田晨輔 奥三河地域におけるムササビの生息状況, 鳳来寺山自然科学博物館館報, **52**, 50-60 (2023)
  - 7) 宮尾嶽雄, 花村 肇, 高田靖司, 酒井英一 愛知の動物, 愛知県郷土資料刊行会, (1984)
  - 8) 春日井市野外教育センター 情報誌やまもも, **平成27年前期**, (2015)
  - 9) 財団法人2005年日本国際博覧会協会環境管理室 愛・地球博環境アセスメントの歩みと成果〜2005年国際博覧会環境影響評価の総括〜, (2006)
  - 10) あいち海上の森センター 海上の森調査報告, **13**, 1-59 (2024)
  - 11) 愛知県 2023年度 愛知県林業統計書, <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/rinmu/2023ringyoutoukeisho.html> (2025. 9. 3)
  - 12) 愛知県 あいちのみどり 2020〜第5次愛知県緑化基本計画〜, (2011)
  - 13) 愛知県 尾張西三河地域森林計画書, <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/rinmu/000007055.html> (2026. 2. 24)
  - 14) 川道武男 空飛ぶ座ぶとん, 築地書館, (2015)
  - 15) 梶浦敬一, 安藤志郎 岐阜県加茂地区神社・社叢におけるムササビの生息状況と植生, 岐阜県博物館調査研究報告, **9**, 21-26 (1988)
  - 16) 岡崎弘幸 東京都におけるムササビ *Petaurista leucogenys* の分布と生息地の分断化, 哺乳類科学, **39**, 169-173 (1999)
  - 17) 青木雄司, 重昆達也, 繁田真由美, 柳川美保子, 蓮田弘美, 山口尚子, 竹内時男, 小林俊元, 佐藤 健, 二宮孝子, 早川広美 神奈川県におけるムササビの分布, 神奈川自然誌資料, **27**, 27-40 (2006)
  - 18) 倉持有希, 安藤元一 写声語によるムササビ声の記録精度, ANIMATE, **7**, 50-53 (2008)
  - 19) 安藤元一, 倉持有希 ムササビ *Petaurista leucogenys* の音声コミュニケーション, 東京農大農学集報, **53(2)**, 176-183 (2008)
  - 20) 立脇隆文, 武田 淳 額田地域・男川流域の神社や針葉樹林におけるムササビの生息状況, 地域活性化研究, **17**, 24-33 (2018)
  - 21) 森 拓矢, 沢田晨輔, 尾崎敬代 樹林環境の違いによるムササビの生息状況, 鳳来寺山自然科学博物館館報, **55**, 56-68 (2026)
  - 22) 繁田真由美, 繁田祐輔, 田村典子 生息痕跡によるムササビの生息地利用の解析, 森林野生動物研究会誌, **35**, 13-21 (2010)
  - 23) Audacity Developer Team Audacity, <https://www.audacityteam.org/> (2026. 2. 24)
  - 24) 安藤元一, 今泉吉晴 狭小生息地におけるムササビの環境利用, 哺乳動物学雑誌, **9(2)**, 70-81 (1982)
  - 25) 尾張旭市 尾張旭市自然環境基礎調査報告書, (2023)
  - 26) 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 生態水文学研究所 改訂版 はげ山が森に戻るまでー東京大学犬山研究林の砂防・緑化のあゆみー, 東京大学演習林出版局, (2018)
  - 27) 繁田真由美, 莊司たか志, 重昆達也, 安藤元一 東京都町田市におけるムササビ孤立個体群の生息環境, 森林野生動物研究会誌, **34**, 37-43 (2009)
  - 28) 矢光啓志, 橋本善太郎, 松尾友矩 南多摩地域の丘陵地におけるムササビの分布情報解析, 野生生物保護, **11(2)**, 11-18 (2008)

附表 調査地点ごとの緯度経度，糞・食痕調査，音声録音調査，直接観察調査，最終調査年月日

No	緯度	経度	糞調査	食痕調査	音声録音調査	直接観察調査	最終調査年月日
1	35.317139	137.036478	糞				2023/7/31
2	35.325608	137.061280	糞				2023/7/31
3	35.299992	137.063651	糞				2023/7/31
4	35.292159	137.066377	糞				2023/7/31
5	35.281028	137.068984	×	×			2023/7/31
6	35.335319	136.990961	×	×			2023/8/17
7	35.336574	137.009962	糞				2023/8/17
8	35.363532	136.998600	糞				2023/8/17
9	35.368170	136.997310	×	×			2023/8/17
10	35.355610	136.971310	×	×			2023/8/17
11	35.346525	136.978482	糞				2023/8/17
12	35.329792	136.966290	糞				2023/8/17
13	35.327475	136.978692	×	×			2023/8/17
14	35.419377	136.966907	×	×			2023/9/21
15	35.420479	136.971402	×	×			2023/9/21
16	35.414254	136.965415	×	×			2023/9/21
17	35.405326	136.966027	×	×			2023/9/21
18	35.396384	136.962191	×	×			2023/9/21
19	35.387064	136.967486	×	×			2023/9/21
20	35.391648	136.977507	×	×			2023/9/21
21	35.388347	136.976111	×	×			2023/9/21
22	35.391035	136.979417	×	×			2023/9/21
23	35.395059	136.985961	×	×			2023/9/21
24	35.379813	137.008653	×	×			2023/9/21
25	35.392430	136.948750	×	×			2023/10/23
26	35.386347	136.937118	×	×			2023/10/23
27	35.387362	136.940192	×	×			2023/10/23
28	35.361360	136.853450	×	×			2023/10/23
29	35.373770	136.895820	×	×			2023/10/23
30	35.355340	136.818330	×	×			2023/10/23
31	35.364060	136.791060	×	×			2023/10/23
32	35.344660	136.759250	×	×			2023/10/23
33	35.353190	136.763990	×	×			2023/10/23
34	35.327070	136.747340	×	×			2023/10/23
35	35.319400	136.744080	×	×			2023/10/23
36	35.295440	136.733570	×	×			2023/10/23
37	35.296310	136.731860	×	×			2023/10/23
38	35.266210	136.706860	×	×			2023/10/23
39	35.261780	136.702930	×	×			2023/10/23
40	35.262390	136.705200	×	×			2023/10/23
41	35.237260	136.680710	×	×			2023/10/23
42	35.171023	137.090272	×	×	×		2023/12/12
43	35.234351	137.040525	×	×	○		2023/12/20
44	35.254300	137.054172	×	×		姿と鳴き声	2024/1/26
45	35.280100	137.090800	糞				2024/7/10
46	35.287800	137.121167	糞				2024/7/10
47	35.288229	137.123523	×	×			2024/7/10
48	35.289050	137.125393	×	×			2024/7/10
49	35.257833	137.099676	×	×			2024/7/10
50	35.258650	137.095300	糞				2024/7/10

No	緯度	経度	糞調査	食痕調査	音声録音調査	直接観察調査	最終調査年月日
51	35.255844	137.086018	×	×			2024/7/10
52	35.250567	137.086167	糞				2024/7/10
53	35.248896	137.092777	×	×			2024/7/10
54	35.253700	137.066850	糞				2024/7/10
55	35.221281	137.144741	糞				2024/7/10
56	35.225730	137.142773	糞				2024/7/10
57	35.226002	137.136011	糞				2024/7/10
58	35.239755	137.141318	糞				2024/7/10
59	35.240886	137.139596	糞				2024/7/10
60	35.245625	137.136429	×	×			2024/7/10
61	35.255557	137.144370	糞				2024/7/10
62	35.260788	137.157494	糞				2024/7/10
63	35.273635	137.143324	糞				2024/7/10
64	35.152311	137.043350	×	×			2024/9/12
65	35.150433	137.058510	×	×			2024/9/12
66	35.156354	137.068273	×	×			2024/9/12
67	35.143441	137.080128	×	×			2024/9/12
68	35.136563	137.061310	×	×			2024/9/12
69	35.122604	137.045776	×	×			2024/9/12
70	35.086330	137.046316	×	×			2024/9/12
71	35.068329	137.018906	×	×			2024/9/12
72	35.070311	137.009017	×	×			2024/9/12
73	35.186920	137.050247	×	×			2024/9/18
74	35.185932	137.054744	×	×			2024/9/18
75	35.183095	137.056144	×	×			2024/9/18
76	35.186375	137.068434	×	×			2024/9/18
77	35.176457	137.077768	×	×			2024/9/18
78	35.187576	137.065934	×	×			2024/9/18
79	35.189562	137.099896	×	×			2024/9/18
80	35.192170	137.123430	×	×			2024/9/18
81	35.186243	137.111408	巣箱に姿				2024/9/18
82	35.226440	137.118603	糞				2024/11/8
83	35.218375	137.164806	糞				2024/11/8
84	35.219214	137.154139	糞				2024/11/8
85	35.218225	137.164743	樹洞内に巣材				2024/11/8
86	35.419619	136.971667	×	×			2024/12/16
87	35.306209	137.054939	糞				2024/12/16
88	35.379945	136.985266	糞		○		2024/10/17
89	35.219719	137.131467	×	×		姿	2024/12/16

音声録音調査の鳴き声を確認した録音データから作成したスペクトログラム動画データの例

愛知県森林公園音声調査メッシュNo. 16の2023年12月23日18時45分のスペクトログラム

<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/syohou/media/2025/005/aichiken-forest-park-16-20231223-184528.mp4>

愛知県森林公園音声調査メッシュNo. 10, 11, 14の2023年12月24日18時11分のスペクトログラム (図5の動画データ)

<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/syohou/media/2025/005/aichiken-forest-park-20231224-1811.mp4>

愛知県森林公園音声調査メッシュNo. 19の2023年12月25日17時55分のスペクトログラム

<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/syohou/media/2025/005/aichiken-forest-park-19-20231225-175509.mp4>

犬山研究林音声調査メッシュNo. 2の2024年10月17日17時57分のスペクトログラム

<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/syohou/media/2025/005/inuyama-resarch-forest-02-20241017-175709.mp4>

犬山研究林音声調査メッシュNo. 9, 11の2024年10月20日18時8分のスペクトログラム (図7の動画データ)

<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/syohou/media/2025/005/inuyama-resarch-forest-20241020-1808.mp4>